

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立浦和商业高等学校)

目指す学校像	グローバルに展開する経済社会において、多様な分野で幅広く活躍する商業人材の育成
--------	---

重点目標	1 資格取得などの段階的な目標設定を通じて高度な知識・技能の習得を図るとともに、応用力・創造力を育む探究活動を通じてたくましく生き抜く力を養う。 2 地域の中核を担う商業高校として、教育活動の充実を図り、魅力ある商業教育を推進する 3 キャリア教育を推進し、社会人として必要な知識・技能や教養とマナーを身に付け、規範意識を持ち、生涯にわたり主体的に行動できる人材を育成する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校評議員	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価							
令和4年度評価(令和3年2月22日現在)							
年度	目標	令和4年度評価(令和3年2月22日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【たくましく生き抜く力の養成】 [現状] 観点別学習状況評価の実施初年度であること [課題] 観点別学習状況評価の着実・効果の実施により、指導と評価の一体化の推進 ● (現状) 生徒の主体的な学びを引き出す授業が求められること (課題) 教授方法・内容の改善と、そのためにICTを効果的に活用すること	○ 観点別学習状況評価の効果的な実施を進めるとともに、その評価を次の指導に生かす、指導と評価の一体化を推進する。 ● 主体的な学びを引き出すアウトプット(議論・記述・発表等)型の教授方法・内容の工夫を図るとともに、ICTによりそれを効果的・効率的に実施する。	○ 学校自己評価システムシート(SS)の評価・改善(各学期末)の中で、生徒の納得性・公平性を高める評価がなされているか、各教職員が生徒による評価を次の指導に生かしているか調査を行う。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、各教職員が授業互見(授業公開や授業観察)、ICTと「教材ルーム」を効果的に駆使した授業を行っているか、生徒や教職員に調査を行う。	○ 観点別学習状況の評価の導入に当たり、指導と評価の一体化は適正に運用されたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● ICT機器を活用した授業は日常的になったか。 ・生徒の授業に関するアンケート結果で満足度は85%を超えたか。 (いずれも、各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善)	○ 観点別学習状況の評価により、指導と評価の一体化が推進した。【教職員アンケート】「大いに」+「まあまあ」97.5%(第1学期比+2.1p)【生徒アンケート】アウトプット型授業が多いかについて「かなり」+「まあまあ」76.5%(+1.8p) ● ICT機器を活用した授業は定着し日常化した。生徒の授業満足度はやや目標を下回った。【教職員アンケート】ICT活用授業の取組度「大いに」+「まあまあ」82.5%(+9.8)、相互通行のICT利用授業3回以上実施37.5%(+10.3)【生徒アンケート】低めの数値であり、一層の量的拡大が必要である。	a	指導と評価の一体化の推進のための授業公開は例年どおり実施できたが、参観後のフィールドバックが例年より少なかった。授業互見による授業改善の意見の集約を進めたい。観点別学習状況の評価も、年間の振り返りを通じて信頼性や公平性、多様性を高めたい。
2	【魅力ある商業教育の推進】 [現状] 学校情報の質量充実した発信と、それに値する教育活動の実施が求められていること [課題] 学校説明会等の参加者数と希望・志願倍率の増加 ● [現状] 県予算の逼迫状況や保護者負担の軽減の観点から予算支出の軽減が求められていること [課題] 県費・団体費予算の効果的・効率的な執行	○ 外部教育資源と連携した魅力ある商業教育の推進により、学校説明会等への参加者数や希望倍率、志願倍率を向上させる。 ● 魅力ある商業教育を推進するため、予算の効果的・効率的な執行を進める。	○ 学校ホームページ(HP)の頻繁更新や外部連携活動等により、中学生やその保護者を学校説明会等へ誘(いざな)い、説明会等でそのハートをキャッチする。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、主に水道光熱費を対象としてペーパーレス化やICT化を進め、効果的にして効率的な教育活動を推進する。	○ 学校行事や部活動の活動内容等について、こまめにホームページに更新(月2回以上)できたか。 ・生徒を前面に出した学校説明会を実施できたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● 経費の有効活用を進めるため、連絡や配付物のペーパーレスやICT化は進んだか。 ・コロナ対策として室内換気と適正温度管理の両立に取り組んだ。【ICT化】職員会議資料の電子化・グループウェア「浦商ティーチャーズ」活用【コロナ対策】感染防止キャッチフリーズ最優秀賞受賞	○ HP更新月25回以上は確実に実施できた。学校説明会等では、生徒を前面に出すことで、本校のPRに一役買うことが出来た。【学校説明会等純参加組数】572組(前年度比±0)【最終志願倍率】両学科計1.00倍(279/278)※前年度0.99倍(276/278)	a	生徒を前面に出す学校説明会等が実施できた。今後は、保護者にも関わってもらったり、中学校へ向向き出張授業を行ったりするなどして、中学生やその保護者、中学校に対する、本校の教育活動の理解を進めていく。
3	【主体的に行動できる人材の育成】 [現状] 生徒のキャリア形成のため、キャリア・パスポートの一層の有効活用が求められていること [課題] キャリア・パスポートの一層の有効活用 ● [現状] 生徒のキャリア形成のため、支援ツールの連携が求められていること [課題] 支援ツールの効果的な連携	○ 主体的に行動できる人材を育成するため、本校のキャリア・パスポート(キャリアパス)の評価・改善を進める。 ● 支援ツール(キャリアパス、生徒手帳、高校生のための学びの基礎診断など)の頻繁利用と支援ツール間の連携を高める。	○ 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、進路指導部と各学年を中心に、キャリアパスの有効活用とその評価・改善を図る。 ● 学校自己評価SSの評価・改善(各学期末)の中で、進路指導部を中心に、生徒の学びを調整する力を育成できるよう、あらゆる支援ツールをキャリアパスに連結させる仕組み(=つなげる化)を構築する。	○ 生徒の自己啓発育成のための面談を年3回以上実施できたか。 ・進路指導部先導で、キャリアパスと進路の手引きを活用した、主体的・活動的な目標設定やその実施ができたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ● 生徒理解に基づくキャリア形成を図るために、関係部署と連携しながら、教職員の共通理解は図れたか。(各学期末に生徒・教職員アンケート等を用いて評価・改善) ・支援ツールに対するベクトルを合わせるために、職員研修会を年2回以上実施できたか。	○ 生徒理解や自己啓発のための面談は年3回以上実施できた。キャリアパスと進路の手引き等を活用したキャリア教育の仕組みを構築できた。【教職員アンケート】キャリアパスの有効利用「大いに」+「まあまあ」57.5%(+9.8)【生徒アンケート】「かなり」+「まあまあ」56.8%(+3.4) ● 生徒理解に基づくキャリア形成を図ることができた。職員研修会を年2回実施することで、教職員のベクトルを合わせることでできた。【教職員アンケート】キャリア形成における職員連携を問うアンケート「大いに」+「まあまあ」85.0%(+1.0)	b	面談やキャリアパス等を活用したキャリア教育推進の成果として就職希望者は100%、進学希望者も97%の進路実現を達成した(評価時点)。キャリアパスについては有効に活用するための仕組みづくりができた。さらに進化させるための改善に取り組むことが求められる。
						a	関係部署・職員が生徒理解を共有しながら連携することで、いろいろな事業を教育相談に上手くつなぐことができた。具体的には、SCやSSWと連携した生徒支援の体制が構築できた。今後は、学校が掲げる教育目標に連なる下位目標や下位計画が、つながりを持って相乗効果を上げる仕組みや体制を構築したい。

学校関係者評価	
実施日 令和5年3月13日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○指導と評価の一体化への学校の努力が実を結びつつあるので、さらに推進されることを期待する。 ○保護者への授業公開も積極的に行うために、保護者へのメール通知の仕組みを導入していただきたい。 □グループワークの授業が増えて、授業が楽しくなった。一方、一部では、先生の話や聞き書きをノートに写すだけの授業もある。もっと対話や発言などのある授業を望む。	○Web上でもコミュニケーションをとれる人材づくりは、これからの社会で大いに役立つはずである。 ○生徒のアウトプット活動は必要であるし、生徒が希望しているということもあり、一層活性化していただきたい。 ○ICT活用については、相互通行の授業がこれからの課題であると思う。一斉授業と同じような授業ではなく、相互通行の授業が増えることを期待する。 □プレゼンアプリを用いた授業が多く、後日、そのデータがグループウェア上にアップされるので復習に役立っている。
○HPの更新回数が大変多く、生徒の活動が魅力的に伝わっており、有効な情報発信ツールである。 ○HPの変更内容やアクセス数、その成果の結びつきがわかると、効果的な発信の在り方が判明するのではないかと。 ○SNSによる発信や動画の有効活用を検討してはどうか。 ○HPの生徒制作動画を観たが、生徒の生き生きとした様子が表現されていて良かった。 ○全部活動の公開・体験を実施してはどうか。学校説明会で浦商の魅力をもっと伝えるために、PTAも協力したい。 □文化祭の公開と学校説明会で部活動の魅力発信したい。	○ペーパーレス化や今後の目標も意欲的である。 ○職員会議資料の電子化などICT機器活用により、ペーパーレス化とともに予算の節約に繋がったことは評価できる。 ○生徒の健康面・学習環境整備を鑑みると、エアコン使用については、当日の寒暖などに配慮しながら柔軟に利用すべきだ。 □移動教室の時に電気や空調をしっかりと切るなど、もっと生徒が工夫できるところがある。自動水栓は便利だし節約になるので増やしてほしい。トイレが全洋式になると良い。
○非常に高い割合で目標進路を達成していることに、教育効果の高さを感じる。 ○キャリアパスの有効性についても、高校生ということを前提にすると、アンケート結果の数値は必ずしも低いわけではない。 ○キャリアパスを全く活用していない教職員が一定数存在する。進路の手引きについても、教職員の活用度がまだまだ低い。教職員の活用度を上げることが、生徒の利用度を上げて教育効果を高め、人材育成につながるはずである。 ○キャリアパスの仕組みができてはいるものの、今後それが機能し、教職員・生徒の活用時間が高まることを期待する。 ○SC等と連携した教育相談体制の構築は、生徒へのきめ細やかなケアが可能となるので教育効果が高い。 ○面談の高い実施率の維持に加え、生徒会設置の目安箱の有効活用について支援していただきたい。 □キャリアパスは進路行事の後に記入できるようになっているので利用率は高い。学習の手引きは、しっかり読み込んでいる生徒は少ないような気がする。学習の手引きは記載内容が豊富なので、保護者との会話の材料になっている。 □生徒会で設置した目安箱の有効活用を図りたい。 ※表記上の補足:「○」は学校評議員、「□」は生徒からの評価である。	